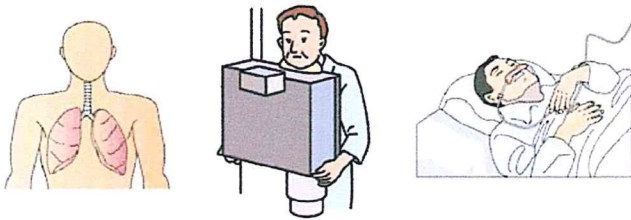


肺炎球菌ワクチン

★肺炎球菌ワクチンとは

高齢者の市中肺炎（家庭で起こる肺炎）の原因となる病原体の中で、**もっとも頻度の高い肺炎球菌**に有効なワクチンです。



★肺炎による死亡率は死因の第4位です。

日本は高齢化が進んで、**肺炎による死亡率が65歳以上**を超えると、急に高くなる傾向があります。

★ **70歳以上の家庭で起こる肺炎（市中肺炎）原因の第1位は肺炎球菌**です。（肺炎球菌はペニシリンなどの抗生物質が効きにくいので手遅れになることがあります）

★肺炎球菌が原因で起こす病気は

肺炎、気管支炎などの呼吸器感染症
副鼻腔炎、中耳炎、髄膜炎などがあります。

予防が大切です。



肺炎球菌ワクチンをご存知ですか？

米国厚生省（DHHS）では65歳以上の高齢者やハイリスクグループの人たちに、強く推奨しています。アメリカの接種率は、50パーセント以上、インフルエンザワクチンの接種率と同じ位です。



肺炎球菌には**80種類以上の型**がありますが、ワクチン接種によって、そのうちの感染する機会の多い**23種類の型**に対して免疫をつけることができます。

1回の接種で5年以上の効果があります。

多くのデータにより安全に接種できることが確認されています。インフルエンザとほぼ同じ要領です。**肺炎球菌ワクチンの予防接種は季節に関係なく出来ます。インフルエンザなどのワクチン接種時期から1週間以上あける必要があります。**

◆肺炎球菌ワクチン接種は次のような方にお勧めします。

- ◇65歳以上の高齢者
- ◇心臓や呼吸器に慢性疾患のある方
- ◇腎不全や肝機能障害などのある方
- ◇糖尿病のある方
- ◇脾臓摘出などで脾機能不全のある方

◇現在は「肺炎球菌ワクチン」は一度しか接種できません。

◇全ての肺炎を予防することは出来ません。

◇保険がききませんので実費です。

（但し、**2歳以上の脾臓摘出の方には健康保険が適用されます**）



<トピックス>

「打診法」

オーストリアのレオポルド・アウエンブルッガー医師は宿屋の息子で、子供の頃、ぶどう酒の樽をたたいて、中にどのくらい入っているかを調べていた。。。これをヒントに打診法を思いつき、1761年、「新しい考案」という小冊子で発表。胸部を軽く指先でたたくと音がして、胸腔にどのくらいの量の空気があるか、また、肺が冒されているか、いないかが、音でわかるという。のちにナポレオンの侍従コンビサールがフランスに紹介して、はじめて世に広まった。